

Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第88号

ななえ古写真物語

VOL. 88

謎の洋館

湖月橋を越えて

大正5年～昭和初期

大沼国定公園



大沼国定公園には、27基の橋が島々を繋いでおり、自然や風景を楽しみながら散策することが出来ます。おそらくそのほとんどが、明治38年に道庁立公園の指定を受け、本格的に進められた整備事業の中で架けられたと思われませんが、古写真に描かれている建設当初の橋を見ますと、木製で風流な造りのものが多く、なんとも言えない趣を感じます。

この整備事業によって新設された橋の中には、写真に描かれている「湖月橋」も含まれません。大正5年4月12日付けの函館毎日新聞に「・・・その他大反橋架設湖月橋と命名・・・（中略）」とあることから、大正5年に新たに架けられたものと考えられる写真の初代「湖月橋」は、木製で別名「太鼓橋」とも呼ばれ、欄干には擬宝珠（ぎぼし・ぎぼうしゅ）が取り付けられ、雅な雰囲気を出した橋として活躍。背景に駒ヶ岳の雄姿を望むことから、絶景の橋としても多くの古写真や絵葉書に使われるなど、数ある橋の中でも指折りの知名度を持っています。現在、湖月橋はコンクリート製のアーチ橋として架け替えられ、「ダブル・ドゥ・リバージュ」というレストランの前で多くの観光客の往来を支えています。

ところで、この写真を見ますと、橋を越えた左側に瀟洒な洋風の二階建ての建物があることに気づきます。先に紹介した「リバージュ」というレストランが建っているあたりだろうと推測していますが、長らく、この建物の詳細については、不明のままでした。

しかし、大沼に住んでおられた千葉昇氏の著書「大沼公園昔語り」に、同じ写真でこの建物について紹介されていました。それによると、これは洋式食堂旅舎（千葉氏は仮名で「川口屋」と名付けている）で、公園創設事業が始まる以前、おそらくは明治15～20年頃に、川口捨次郎が経営していた二階建洋式旅舎（ホテル）と、それに連なる平屋の食堂であり、千葉氏も訪れたことがあると記しています。しかし、大沼公園駅から離れていたためか、ホテル側の営業は不振だったようで、大正5年には、隣接する数寄屋作りの別荘を高級料理店「湖月亭」として開業。大正12年に久邇宮同妃両殿下の大沼来訪の折には、この湖月亭で休息され「川口捨次郎が拜謁を賜り、無上の光栄に浴した。」と当時の新聞にも掲載されました。

知らない事が多い私は、まだまだ若輩者だと知らせてくれた写真の紹介でした。

5月の予定

1日

「ふぁみりーでいみゅーじあむ」で桜もち作りに挑戦しました。桜・梅・桃の花の違いを学芸員から教わったのち、道明寺粉を蒸かして食紅で色を付け、「大島桜」という桜の葉でくるみました。ひな祭りにちなんだ絵本を読みながら、おいしく節句について学びました。



15日

大沼周辺をフィールドに、冬の探鳥会を開催しました。大沼森林公園やセバット小沼周辺などを散策しながら鳥たちを探し、オオワシ・オジロワシといった大型猛禽類やマガモやミコアイサといった水鳥を観察することが出来ました。来月には、春の探鳥会を開催しますので、興味がある方は是非参加下さい。



21日

今年度、最後のジュニア探検クラブでは、一年の活動を振り返って、文集づくりに挑戦しました。また、午後からは閉講式。館長から一人ずつ終了証が手渡され、12回のプログラムを締めくくりました。

一年間、様々な活動を通して子どもたちが成長していく姿に、主催者として、継続していくことの責任を改めて感じました。



28日

「フォレスト・コーミング」と題して身近な環境の観察会を開催しました。講師には自然保護監視員の金澤氏をお招きし、当館に隣接するスギ林を中心に散策しながら、静かながらも逞しい植物たちの生態について、興味深いお話しを頂きました。

当館で初となる試みでしたが、ゆったりとした時間の中で改めて自然について考える良い機会になり、日々移りゆく季節を大切に肌で感じた1日になりました。



1	金	新収蔵資料展
2	土	
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	こどもの日
6	水	振替休日
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	春の探鳥会
11	月	
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	ジュニア探検クラブ
31	日	

5月の休館日はありません。

冬ノホシゾラ

3/18に当館で初となる星空観察会を開催しました。天候に恵まれませんでした。木星が観察できて一安心。また開催しますので楽しみに。



編集後記 ~tawagoto~

いよいよ27年度がスタートしました。変わらぬスタッフで今年も邁進いたしますので、今まで通りのご愛顧をお願い申し上げます。

さて、新年度からはロビーに飾っている植物たちを定期的に変えたり、館内の表示物をシンプルにしたりと、目立たない所から、来館者の皆さまに心地よく利用して頂けるように努力していますので、その小さな変化を探しに、何度でもご来館頂ければと願っています。
(やまだひさし)

Richard

~ピチャリ~

第88号

平成27年4月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp